

所外研修⑦ 島尻地区幼稚園教育課程研究協議会に参加

11月6日(金)に島尻地区幼稚園教育課程研究協議会に第7回所外研修として、参加しました。小中学校の研究者は、午前からの参加でしたが、意図的な環境構成による保育の展開と、幼児の遊びを通じた学びを実際に保育参観を通して、実感することができました。

幼稚園の研究者は、午後の研究発表、研究協議まで参加し、幼稚園における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの適切な実施について、具体的に学ぶことができました。

島尻地区の幼稚園の先生方100余名の参加による協議会は、活気あふれる会でした。

【協議会の概要】

〈午前の部〉

(1) 公開保育

〈午後の部〉

(2) 研究発表会

開会行事

開会のことば 司会

主催者あいさつ 島尻教育事務所 所長 宮城末義

歓迎のあいさつ 北丘幼稚園 園長 伊良皆マサ子

研究発表

北丘幼稚園 教頭 金城明日香

北丘幼稚園 教諭 金城和美

(3) グループ協議

「教育課程及び指導計画に基づく実践、評価、改善の具体的な取組について」

(4) 各グループからの発表

(5) 総括

沖縄県教育庁義務教育課 指導主事 上間輝代

閉会行事

開会のことば 司会



写真1 北丘幼稚園にて

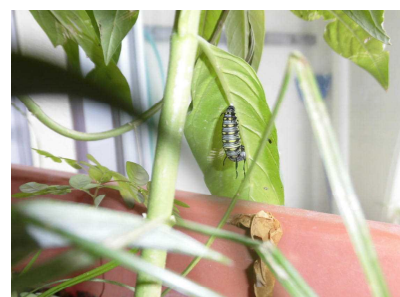


写真2 保育参観

教育研究員の感想 (研修日誌から)

午前の保育で、子どもの遊びの積み重ねが見られた場面もあり、先生方が意識して保育に取り組んでいたのが伝わりました。自分自身の子どもの実態も把握することができ、引き継いだ先生に、丁寧に伝えてあげるべき部分も見えて私にとってよい参観でした。

午後の協議会では、グループにわかれて“保育マネジメントサイクルの具体的な取組”について事例を用いて協議しました。結構みんな、教育課程の期のねらいに基づいているということでしたが、子どもの育ちを読みとったり、振り返ったりすることが薄いんだなと感じました。教育課程における課題とは、教師の幼児理解だと私は感じました。協議の場で意見が言えたのも研究所での研修のおかげです。こうやって現場に戻った時に、情報として発信していく必要性を感じました。(上原亜矢)



幼稚園の保育参観。一言で言うと、とても楽しかったです。遊んでいるときの子どもたちのきらきらした目の輝きがとても印象的でした。心から、遊びが楽しいのだろうなと思いました。これも、さりげなく環境を整えている幼稚園の先生のおかげなのだと見て取れるいい保育でした。私が、感動したのは、「てっぼうやさん」のゲームコーナーでの子どもたちの言葉かけです。私がゲームをやり終わると、「すごーい！」「ここまでできたなんて上手だよ！」と褒めてくれたのです。私は嬉しくて、飛び跳ねて喜びました。それから、失敗すると、「もう一度やっていいよー。」とサービスしてくれました。子どもたちの優しさに心が洗われました。まだ、こんなに小さな子どもなのに相手を気遣ったり、思いやりたりする心を持っているなんて……。感動しました。また、自然の材料を使って、洋服を作っている子どもいましたが、アイデアがたくさん散りばめられていて、すてきだなと感心させられました。これも、幼稚園の先生方の教育のおかげなのだと感じました。環境を整え、子どもたちに寄り添い、心も体も頭も育てる幼稚園教育を目の当たりにし、私も、学校に戻ったらがんばるぞ！という気持ちになりました。

(比嘉頼子)

幼稚園の保育参観は自分の娘の参観はしたことあるのですが、研究大会としての視点での参観は初めてでした。今回は、僕は教師の声かけや動きと環境の工夫について見ました。幼稚園の教室環境は、小学校とは全然違って子ども達の作品が数多く掲示されていて見ていてとても楽しくなりました。虫や植物に興味もてるような掲示物もたくさんありました。さらに、黒板には時計がはってあって何時からは片付けタイムというのが一目でわかるような工夫やイスの片付け場所にも「5つずつ片付けます。」という掲示もありどこに何を片付けるかがわかるようになってました。

教師の声かけですが、あまり大きな声で指示する場面がなかったのでよくわかりませんでした。がはさみやセロテープが床に落ちている時にそっと直したり、片付けでは教師が率先して行ったりしている様子があり、小学校高学年とは違うと感じました。

どのクラスでも、子ども達は活動に夢中に取り組んでいる様子が印象的で、金魚すくい屋さんにしゃべりかけると人見知りせず色々教えてくれました。幼稚園での様々な活動のおかげで、小学校ではスムーズな教育活動ができていると感じました。

(久高友弥)

幼稚園保育を参観するのは、母親の立場しかなかったので、この研修で、普段の子ども達の様子を観ることができました。それぞれのクラスで子ども達が楽しそうに活動していました。1組では、ロボット作り・衣装作り、2組では、お店屋さん・お祭りごっこ、3組では、制作遊び・色塗り遊びが展開されていました。自分たちで作った作品をお客さん(参観者や友達)に提供することのできる幼稚園児にびっくりさせられました。きっと、側で見守ってくれている教師がいるから安心して制作活動ができるのだと思います。中々、家庭では、段ボールを切ったり、テープでくっつけたりするようなダイナミックな遊びはできないと思います。実際に母親の立場では、「片付けて」が先にきてしまうからです。そういう意味でも、同じ年齢の子ども達が介して好きなものを自分たちで制作できる環境って大事なのだと思います。そこから、はさみを上手に使える子やアイデアが浮かばない子にも子ども同士で相談したり、協力したりする場面が生まれるのだと感じました。

途中、「みなさんがこないからさみしいです。だれかあそびにきてください。」という子どもの切実な思いの放送が流れると、一斉にその子の遊び場へ向かう子ども達。いろんなことが問題となっている社会の中で、相手を思いやる心、気遣う心があるすてきな子ども達の姿が垣間見られて幸せな気持ちにさせられました。

教育の原点と言われる幼児教育を間近に観ることができ、貴重な学びとなりました。(富名腰由紀)

各クラスともそれぞれのテーマで「遊び」を工夫していました。1組では粘土と段ボールを主にした遊びで園児は、思い思いの粘土遊びをして色づけをしていました。パレットタイプの絵の具だったので色が混ざりあり、思うような色がでないと園児が困っているのをみた先生は、どうしたらいいかなと声かけをしていました。たくさんの園児が体いっぱい使って活動している中で困ったときを見逃さずしっかり声をかける先生はすごいと感じました。

片付けの時間では、放送が入る前に誰かが声をかけ始める学級もあり、しっかり手順が確認されていて幼稚園児でもここまでできるのに関心しました。教室の環境をテープや写真でしっかり示している効果が表れていると思いました。どの園児も幼稚園楽しいよと体いっぱい表現していて、見ている私も元気をもらいました。

(波照間生子)